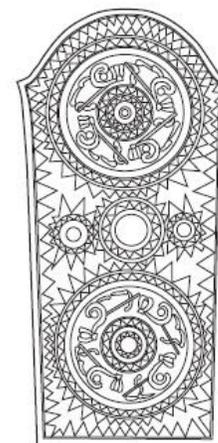


(仮称)奈良市文化財センター建設基本構想【概要版】

令和6(2024)年3月

奈良市教育委員会



®6787387

(仮称)奈良市文化財センター建設基本構想【概要版】

1 施設集約の背景

■既存施設の課題

■施設全体

- ・施設の老朽化の改善

■収集・調査・研究

- ・各文化財に見合った収集・調査・研究環境の充実
- ・最新の調査研究施設・システムの導入
- ・人材育成や教育環境・働きやすい環境の整備

■整理・保存・保管

- ・収蔵規模の拡充
- ・施設の老朽化による適切な収蔵環境の整備
- ・防災性の向上
- ・防犯性の向上

■展示・活用

- ・展示空間の拡充
- ・適切な展示環境・設備の整備
- ・幅広い利用者へ訴求する展示機能の充実

■交流・体験

- ・団体見学者の受入れ体制の充実
- ・気軽に立ち寄れるエントランス空間や休憩・交流スペースの整備
- ・ユニバーサルデザインの導入
- ・周辺施設との連携

■富雄丸山古墳から出土した文化財

- ・直径110m前後の日本一大きな円墳である富雄丸山古墳から、東アジア最大とされる蛇行剣や、類例のない盾の形をした国内手工業技術の最高傑作とされる鼉龍文盾形銅鏡、状態の良い木棺や銅鏡など、重要な文化財が出土しています。これら出土品の保存・保管や展示公開が必要です。



蛇行剣



鼉龍文盾形銅鏡



木棺



銅鏡

(仮称)奈良市文化財センター建設基本構想【概要版】

2 施設コンセプト

〈理念〉

古都奈良の歴史・文化の価値・魅力を紡ぐ
文化遺産の「発見」「継承」「発信」の拠点
～世界に発信できる文化財を守り、未来に伝えるための施設～

〈コンセプト〉

発見

文化財を調査・研究し、
さらなる価値・魅力を「発見」する

現センターが担っている調査・研究のさらなる機能強化を図ることで、本市に眠る文化財のさらなる価値や魅力を発見することを目指します。

継承

文化財の価値・魅力を保存し、
次世代に「継承」する

多数の文化財保存のための機能を充実させ、研究の大切さ・意義を伝えることで、人材の育成を推進するとともに、永続的に文化財の価値や魅力を継承し、次の世代に守り伝えることを目指します。

発信

文化財の価値・魅力を集積し、
地域から世界へと「発信」する

市内の文化財の価値や魅力を発信し、本市の文化的魅力を地域のみならず全国・全世界へアピールすることで、人々の地域を誇りに思う心を育み、地域経済の活性化に寄与することを目指します。

〈機能〉

収集・調査・研究

整理・保存・保管

展示・活用

交流・体験

(仮称)奈良市文化財センター建設基本構想【概要版】

3-1 導入機能

■収集・調査・研究機能

- 文化財に関する調査・研究機関としての業務が遂行できる環境や設備を整備するとともに、国内外の研究機関や大学などと連携し最先端技術を用いた文化財の調査研究拠点となることを目指します。
- 平城京や奈良町など、主要遺跡の発掘調査をはじめ、市内に所在する埋蔵文化財の中心的研究施設としての機能を発揮します。

■整理・保存・保管機能

- これまでの数多くの発掘調査成果やこれから出土する数多くの文化財に対して適切な保存・保管環境を整備するとともに、国宝・重要文化財の保存・保管、また、史料のデジタルアーカイブ化による資料整理・活用の利便性の向上や、環境にやさしい設備による適切な温湿度環境の構築や脱炭素化を図ります。

■展示・活用機能

- 富雄丸山古墳から出土した蛇行剣や盾形銅鏡、木棺などの出土品の展示のほか、平城京を中心とした奈良市の通史を学べる展示を行います。
- 出土品や史料の貸し出し、また、児童・生徒の歴史学習や生涯学習の場としての利用を図ります。
- 収蔵庫の一部を透明な観察壁で視認できる「見せる収蔵庫」による展示を目指します。

■交流・体験機能

- 一般利用者や大学・企業などの研究者が実物の鑑賞やレプリカに触れて学ぶ体験を通じて交流し、文化財の重要性や情報の発信を行うことができる居場所をつくり、情報共有、連携研究などが活性化する取組を推進します。
- 文化財を通じたイベントや情報発信など、地域交流の場を提供し、文化財の重要性を広く啓発します。
- ARやVRによる発掘調査体験や、土器作りなど古代の技術を体験できる施設を目指します。
- 多言語に対応した文化財のデジタルアーカイブや音声ガイドの導入を検討します。

(仮称)奈良市文化財センター建設基本構想【概要版】

3-2 規模のイメージ

■規模のイメージ

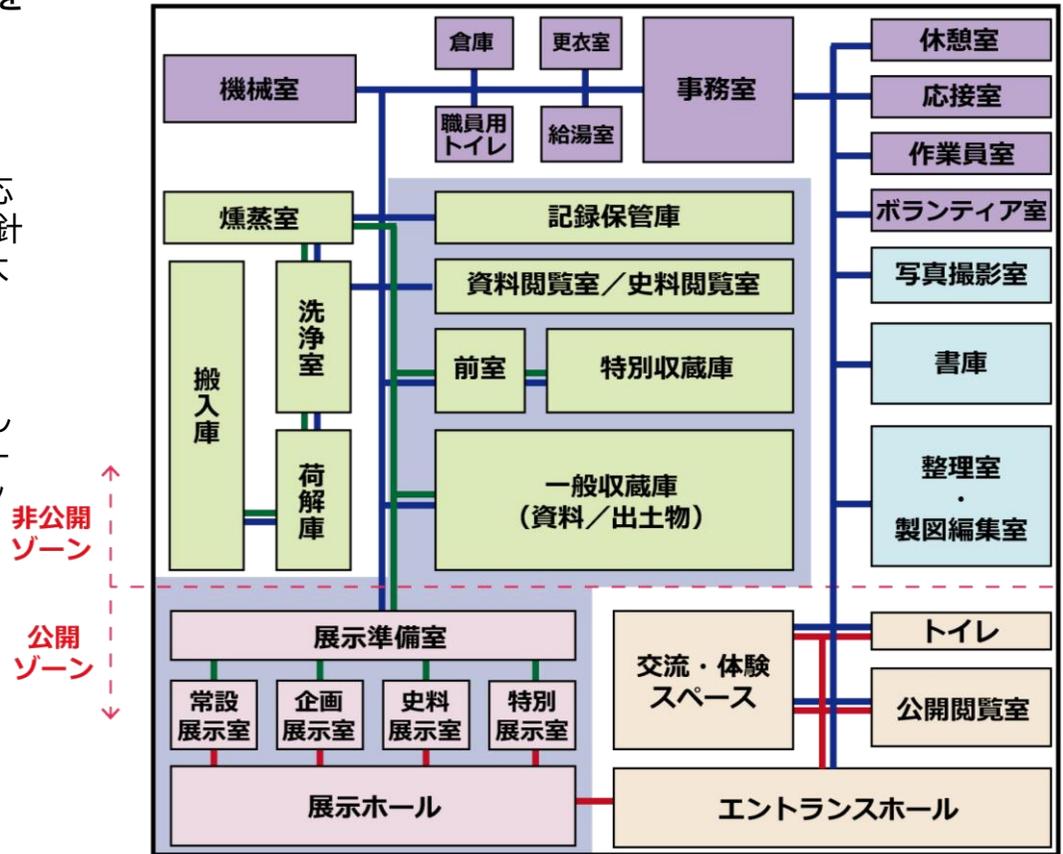
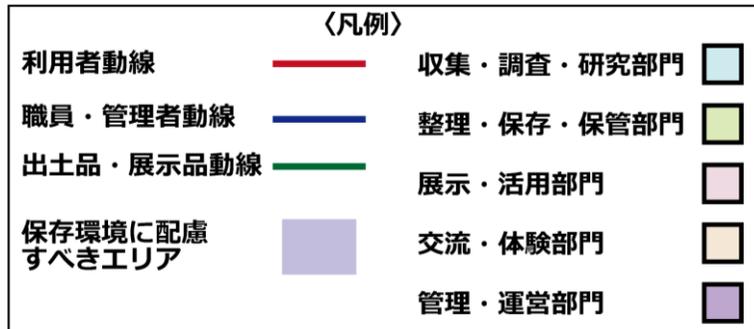
- 規模(延床面積)は6,000㎡以上、敷地面積は7,000㎡以上を想定しています。
- 以下のような配慮事項に留意してゾーニングを計画します。

①整理・保存・保管部門における配慮事項

一般収蔵庫と特別収蔵庫においては、対象とする文化財に応じてそれぞれ適切な保存環境となるようゾーンを区分する方針とする。また、出土品の増加などに伴う将来的な収蔵庫の拡大や増築を行った場合にも運用しやすい諸室配置や動線計画を検討する。

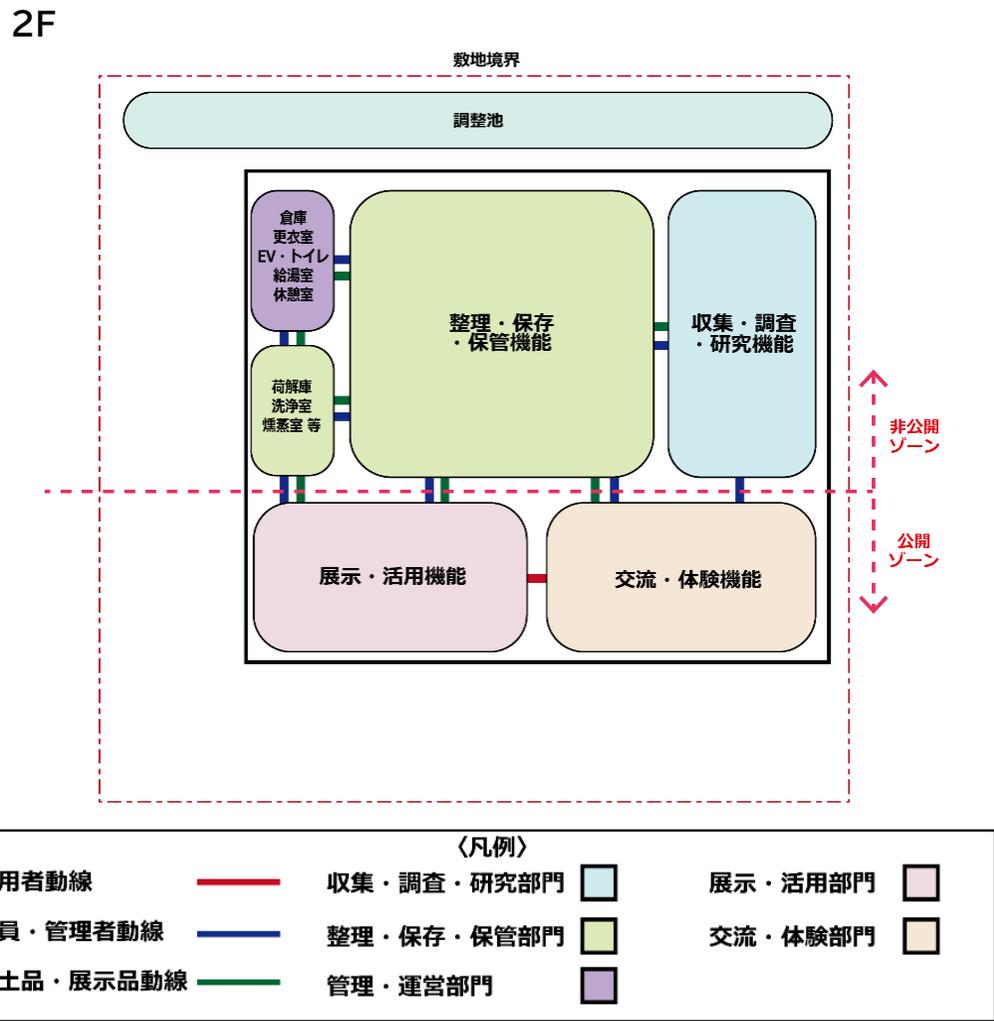
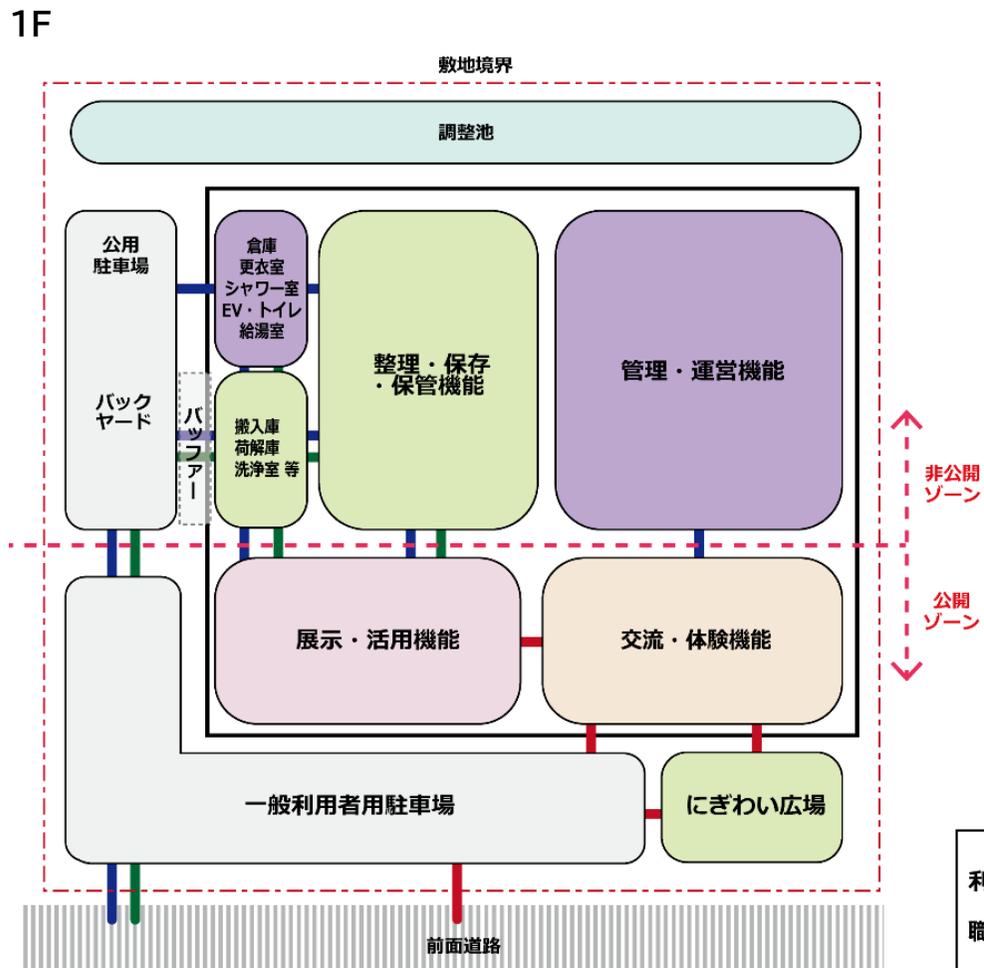
②管理運営部門における配慮事項

発掘調査に従事する職員の作業動線やプライバシーに配慮した諸室の配置、動線計画を検討する。また、水・泥を伴うスペースと水・泥を避けるスペースは出入口や動線を分けてゾーニングする方針とする。



(仮称)奈良市文化財センター建設基本構想【概要版】

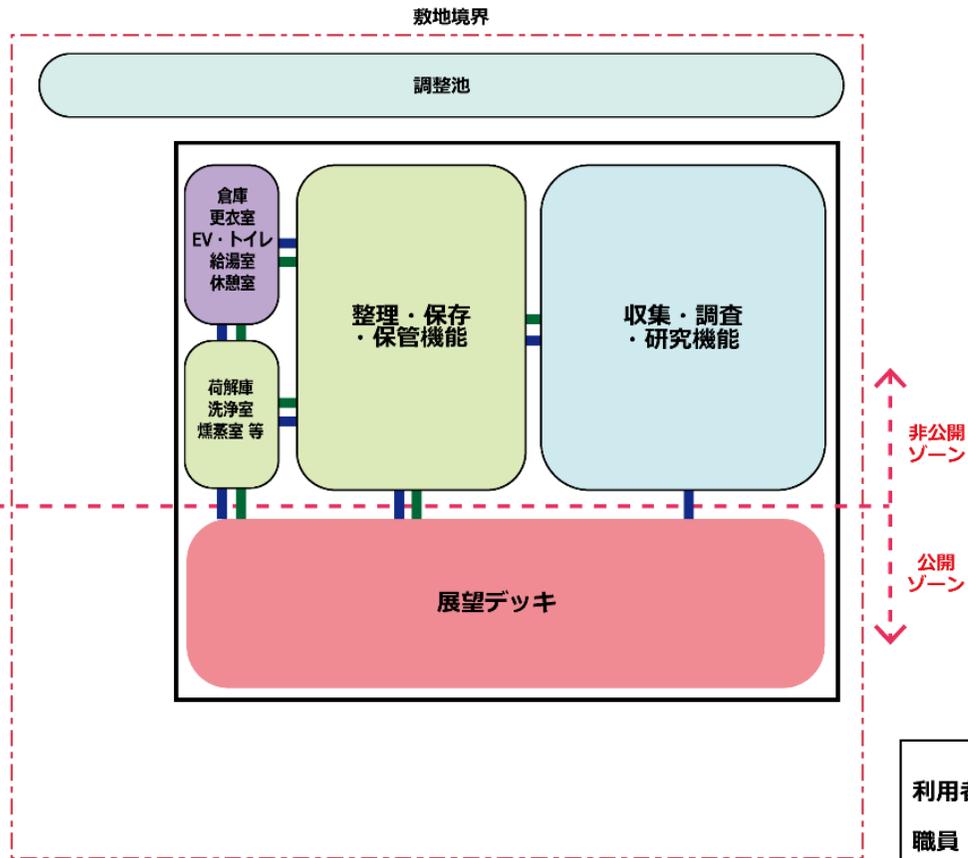
3-2 規模のイメージ



(仮称)奈良市文化財センター建設基本構想【概要版】

3-2 規模のイメージ

3F



〈凡例〉			
利用者動線	— (Red line)	収集・調査・研究部門	□ (Light Blue)
職員・管理者動線	— (Blue line)	整理・保存・保管部門	□ (Light Green)
出土品・展示品動線	— (Green line)	管理・運営部門	□ (Purple)
		展示・活用部門	□ (Light Pink)
		交流・体験部門	□ (Light Orange)

(仮称)奈良市文化財センター建設基本構想【概要版】

4 施設整備計画

■ 建築計画

- 新センターの外観は、奈良市景観計画による規制を踏まえつつ、周辺環境や富雄丸山古墳と呼応するとともに、維持管理しやすいシンプルなデザインや構造を目指します。
- 職員及び一般利用者が利用しやすい諸室配置や動線計画とし、誰もが親しみやすいシンプルな内装デザインを目指すとともに、「見せる収蔵庫」のように「見せる」と「納める」を同時に実現するような機能的で開かれた空間デザインを検討します。
- 災害時の浸水対策として展示室や収蔵庫は2階以上の階へ計画し、収蔵庫は温湿度管理が適切に行える環境を計画します。但し、浸水しても被害を受けにくく、重量があり2階以上への運搬が大変な土器類などは1階に収蔵庫を設けることを検討します。
- 厳重なセキュリティを目指し、画像センサーを搭載した防犯システムの導入を検討します。
- 展示品の緊急時の搬出経路を確保します。

■ 構造計画

- 重要文化財の保存・保管を行うことも想定し、建物の構造種別としては耐火・耐震に優れた鉄筋コンクリート造(RC造)を基本としつつ、文化財公開施設並びに博物館相当施設として相応しい堅牢な構造計画を検討します。

■ 設備計画

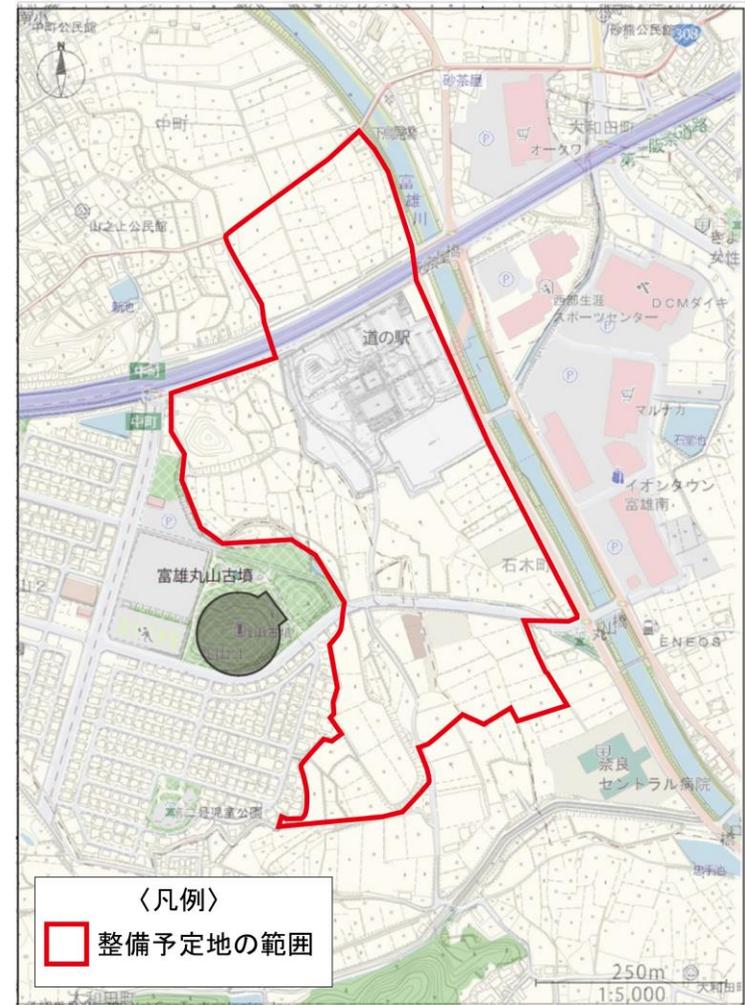
- 重要文化財の保存・保管を行えるように、求められる温湿度管理などを適切に行える設備計画を検討します。
- 日々の維持管理のしやすさや、建物のライフサイクルコスト縮減のため、省エネ性の高い設備の導入や、設備の配線・配管などの合理的な計画を検討します。
- 富雄丸山古墳より出土した蛇行剣や木棺のような大型の出土品の移動が可能な動線や開口部、エレベーターの計画を検討します。また、各諸室においても空間を柔軟に活用できるようにコンセントの配置などを検討します。
- さらに、展示ケースは展示品に見合う展示環境を維持する機能を備え、耐震性や耐火性などに配慮するとともに、掃除機やガス吸着ファンなどを設置可能なコンセントの設置を検討します。

(仮称)奈良市文化財センター建設基本構想【概要版】

5 立地

■ 整備予定地の立地

- 富雄丸山古墳に近くアクセスが容易で、新センターに富雄丸山古墳のガイダンス機能を持たせることができます。
- 富雄丸山古墳と道の駅「クロスウェイなかもち」と連携することで相乗効果を生み出し、市西部の活性化を担う重要な拠点施設として誘客を促進し、地域経済の活性化に寄与することが期待されます。
- 第二阪奈道路の出入口に近く、市中心部から直線距離で約7kmの場所に位置しており、約20分程度で車による、アクセスが可能です。大阪圏からの入口ともなり国内外の方々を誘客し、奈良市内外を回遊する文化財を核とした観光の起点として利用できます。



(仮称)奈良市文化財センター建設基本構想【概要版】

6 展示計画

■基本方針①

- 適切な温湿度管理や耐震性・耐火性・防犯性に優れた安全・安心な展示
- ・耐震性、耐火性に優れ、適切な湿度管理が行える気密性の高い展示ケースを導入します。
- ・管理運営面からも使いやすい展示ケースを導入します。
- ・画像センサーを搭載した防犯システムを導入します。

■基本方針②

- 幅広い利用者へ訴求する展示
- ・専門家も満足する高水準、高品質の展示を目指します。
- ・考古学ファンよりもライトな層でも楽しめる特別感やユニークさを感じることができる展示を目指します。
- ・ユニバーサルデザインに配慮した展示を目指します。
- ・多言語対応の音声ガイダンスや案内板などにより、国内外の人が分かりやすく理解できる展示を目指します。
- ・時期やイベントなどに応じて柔軟に配置やレイアウトを変更することが可能な展示を目指します。

■基本方針③

- 富雄丸山古墳出土品の展示
- ・富雄丸山古墳から出土した蛇行剣や盾形銅鏡、木棺などの出土品を展示します。

■基本方針④

- ストーリーを伝える通史展示
- ・史跡巡りなどの観光促進につながる古都奈良ならではのストーリー性を有する通史展示を目指します。
- ・期間によってテーマや構成を変え、時期やイベントなどに応じて柔軟に配置やレイアウトが変更可能な展示を目指します。

■基本方針⑤

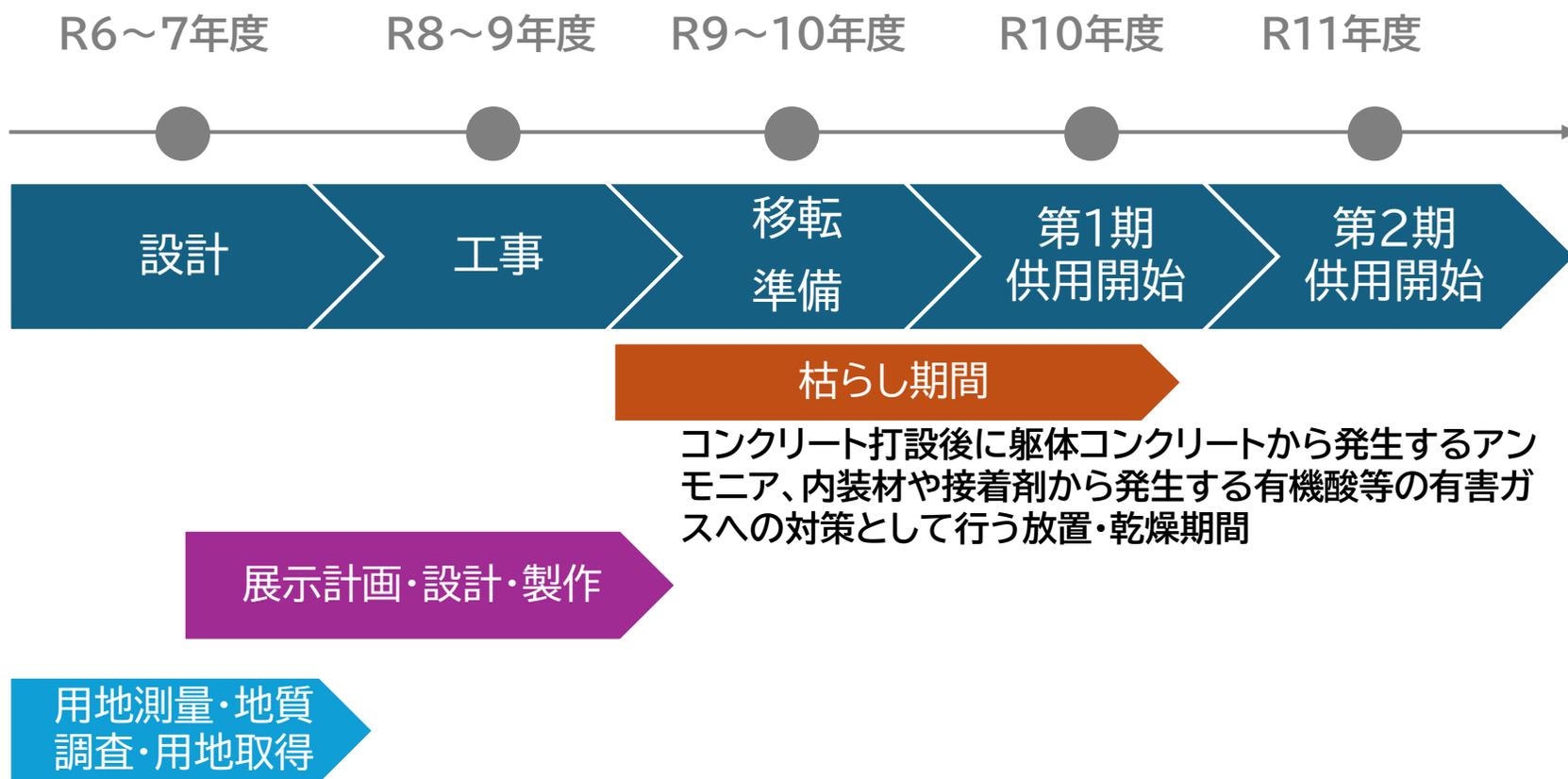
- 五感で学べる体験型展示
- ・実物展示や気軽に触れて楽しめるレプリカ展示まで、五感で学べる体験型の展示を目指します。
- ・最新技術やライトアップ、音楽、香りによる演出など、五感を刺激し、訴求力や満足度を高める体験型の展示を目指します。

■基本方針⑥

- 収蔵庫や調査研究風景などの臨場感のある展示
- ・収蔵庫の一部を透明な観察壁で視認できる「見せる収蔵庫」による展示を目指します。
- ・市民の方々の研究活動や取組、職員の調査研究の様子など、日頃文化財を支えている方々の活動や情熱、培われてきた技術や経験をARやVRなどの最新技術を活用して臨場感のある展示を目指します。

7 今後の事業推進に向けて

- 今後、諸室の配置や規模などを精査した上で、施設の設計及び工事を行い、令和10年度から段階的な供用開始を目指します。



※事業スケジュールは今後変更となる可能性があります。